

場所の固有性に関する研究



【中野キャンパス】 人文社会学部 観光経営学科 教授

狩野 朋子 Kano Tomoko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



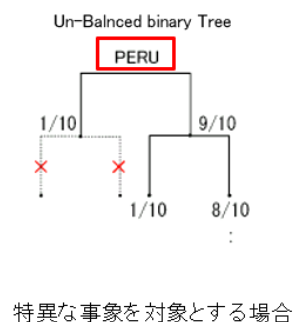
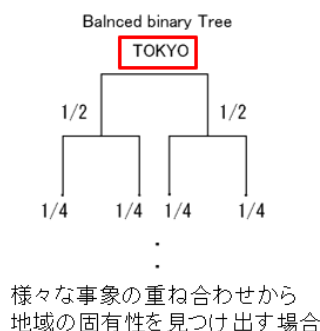
キーワード：建築・集落・固有性・空間解析・地域資源・都市デザイン・観光まちづくり

研究の概要

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを
SDGs 目標 15：陸の豊かさを守ろう

都市空間は複雑な様相を呈しているが、その構成や配置を読み解くと、場所固有の文化、習慣、価値観などが内包されていることが明らかになる。こうしたサイトスペシフィックな固有性を捉え、視覚化していくことは、都市デザインや観光まちづくりの深化にとどまらず、地域に暮らす人々が自らの都市や地域を再認識する契機となる。

本研究は、フィールドワークと空間情報を用いた分析を通じて、場所固有の空間特性を読み解く手法を検討し、それらを明快に記述し、地域住民や関係者と共有するための表現方法を探るものである。成果は、地域・観光振興や観光まちづくりに活用される。



実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

世界の都市やまち、建築群を対象に、フィールドワークと空間情報を用いた分析をおこない、その地域の魅力となる場所の固有性を発掘している。また、国内外の専門家や地域住民、自治体等との対話を通じて、得られた知見をまちづくりや都市デザイン、観光まちづくりの計画立案や実践的な取り組みへとつなげる方法を提案している。

「このまちには特徴がない」「この地域には顔がない」と思われがちな場所であっても、人々の生業や日常の営みがある限り、必ず固有の魅力が存在する。本研究では、そうした見過ごされてきた場所の固有性を発掘し、分かりやすく可視化・共有することを重視している。

これまで個人およびチームで取り組んできた建築・都市デザイン競技では、国土交通大臣賞、日本代表、世界大会第3位などの受賞実績がある。

地域の魅力を再発見し、地域振興（創成）や観光まちづくりを検討する際には、調査・ワークショップ・計画・実践までを一体的におこなう実学的な取り組みとして、国内外を問わず、連携・協力することが可能である。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【書籍】・「建築・都市計画のための空間学事典 増補改訂版」

【国際会議・招待講演】

・「Cooperation for Sustainable Development of Life and Cultural Tourism in Bergamo」

【論文】・「二値化データに基づく場所の固有性に関する研究」